

伏見天皇本影印

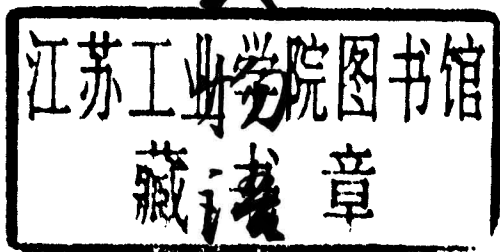
源氏物語

一

古典文庫

伏見天皇本影印

源氏



古
典
文
庫

平成三年一月二十日印刷発行 非売品

源氏物語

一

編者 吉田幸一

発行者 吉田幸一

印刷者 白橋印刷所

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話 (三九一〇) 二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

第一冊 目次

凡例	三
一 桐壺	五
二 帚木	七
三 空蟬	二〇
四 夕顔	二三
解説	三六

凡例

一、本書には、架蔵『源氏物語』五十四帖三十二冊を十四分冊に複製するに際し、その第一冊として、「桐壺・帚木合一帖」と「空蟬・夕顔合一帖」の二冊を縮写影印して収めた。

一、ここに影印するに当たり、大体次のようにした。

1 原本諸帖には、首尾に遊紙（白紙）がある。若干その枚数や有無に相異があり、首の白紙一丁には、後人による巻名を記した押紙が、貼られているのは、桐壺巻から常夏・篝火・野分合一帖まで、それ以下にはない。これが首一丁表に貼ってあれば、扉の役目をするが、無い巻は白紙である。

なお、影印に際し、遊紙は首尾一丁にとどめ、余は影印面から割愛した。

2 各冊の丁付は、各帖ごとに首の遊紙一丁から付けた。そして、『源氏』の巻が二つ以上の合一帖本には、中程で巻名が替るごとに、その巻の本文墨付一丁から丁付を起こした。丁の表裏はオ・ウと略称した。

3 丁付に施した五十四帖の卷名は、現在通行の漢字表記を用いた。（例、はゝ木ゝ・簾木↓帚木。蘭・ふぢ袴↓藤袴。）

4 原本には、表紙の文様や外題の剝落、本文にも火水による染みや損傷、料紙による裏写りの部分などがある。そうした箇所は、なるべく別に原色版によって補うことにした。

5 原色版による補足には、その卷名や丁付を示し、十四分冊中、比較的頁数の少ない冊子に随時一括して納れた。

6 各所収本の書誌的解説は、分冊ごとに、その卷末に記した。



桐壺（表紙）



桐壺（見返し）



桐壺（一才）



桐壺（一ウ）

小所つらなる城いもく雨くすあをたけ
 もあはなれが一人のうーわをいふが
 羅や如く世のうらーもたを人衆人
 神をがーなる上達戸二人たを人
 なくも家よりめけいふもくゆ人
 小にほなるもあしーもひるゆりた
 小ふれ世をみまれあーりやた
 やうくあをのーももあらふた
 のふたやうく小なるを楊夫妃のふた
 新も半人いけいへくなるもゆらういり

がはるにほれもふしきも養ひあへ
のちろいぢ養紙のうそを師いれぬ
ろの大納もふくむるそ母背びんじ
し人の人よりあるそはわうらと祈
こしあふそ世にほいそふぢなる所
ふくもいいうぢなるそはわうら
はにふかしぬぢなるそはわうら
幾うしぬぢなるそはわうら
はにふかしぬぢなるそはわうら
すし師なるそはわうら

きつちり自留のたのこみこえんじり続ね
はしあふりかきつりおくいうこい
きつりしんすきつりあふりこの
ゆきつり一乃きつりたれきつり
しんすきつりなりくうきつりしんす
のきつりあふりしんすきつりしんす
のきつりしんすきつりしんすきつり
しんすきつりしんすきつりしんす
しんすきつりしんすきつりしんす
しんすきつりしんすきつりしんす

桐壺（三ウ）

かしなへて人言つて——物さうな
 め——わいにはい——わい——うへく上る
 う——きつてわい——うへく上る
 小うへはわい——うへく上る
 出つて——うへく上る
 小うへはわい——うへく上る
 わい——うへく上る
 小うへはわい——うへく上る
 わい——うへく上る
 小うへはわい——うへく上る
 わい——うへく上る

[illegible]

明石（四ウ）